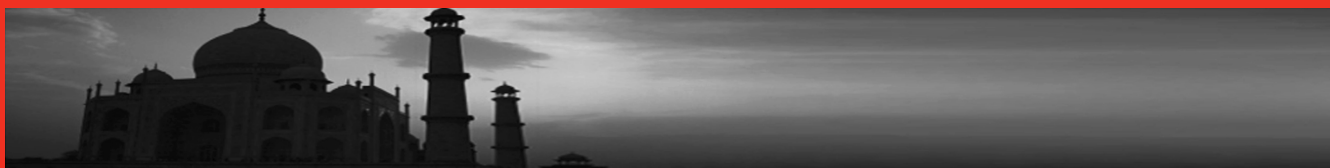


## HSBC グローバル・インベストメント・ファンド・インド・エクイティ

**サンジブ・デュガル（インベストメント ディレクター、エクイティ）**

サンジブは1996年4月にHSBCに入社しインド株式の運用を行っています。15年間以上の投資経験を基にサンジブは1996年4月から主力ファンドであるGIF-インド・エクイティの運用に関わっています。

HSBCに入社する前はヒル・サミュエルグループで働いていました。そこで5年間を過ごし、最初は内部監査、後には新興国市場のファンド・マネージャーをしていました。

**Q: 2009年のHSBCグローバル・インベストメント・ファンズ-インド・エクイティは、どのようなパフォーマンスでしたか？**

A: HSBCグローバル・インベストメント・ファンズ-インド・エクイティ（以下、当ファンド）は、2009年、香港の同じカテゴリーのファンド\*1の中で、最も高いリターンを挙げたファンド\*2となったほか、2番目のパフォーマンスを挙げたインド株ファンドと比較しても、25%強もアウトパフォームしました。ベンチマークとの比較でも、総リターンがベンチマークの+95.1%に対し、当ファンドは+131.5%を記録し、ベンチマークを36.4%もアウトパフォームする結果となりました。2008年の当ファンドの結果は芳しくなく、ベンチマークを約6.6%アンダーパフォームしただけに、2009年の結果には喜んでいますが、当ファンドは、香港で販売されているインド株ファンドの中で最も残高が大きいファンドです\*3。

**Q: 2009年の急騰を受けての2010年の見通しは？**

A: インド株式市場の2009年のパフォーマンスは力強く、米ドルベースで約90%上昇した結果、バリュエーションは過去5年および10年双方の平均を上回る水準となっています。このため、私たちは短期的には慎重なスタンスを取っています。

バリュエーションに加え、政府資産売却プログラムや民間企業による投資プロジェクトに向けた資金調達に伴う株式供給の増加が、懸念材料として挙げられます。

政府は現在非常に大きな財政赤字を抱えており、赤字縮小に向けて資金の確保に努めています。このため政府が、政府系上場企業の株式放出ならびにIPOによる株式の売却を実施することから、市場には需給面で重しとなります。当ファンドは、こうした売却資金が2010年最初の4カ月で200億ドルから300億ドルに達すると予想しています。

もう一つの懸念材料が小型株の上昇です。小型株は大型株に比べて著しくアウトパフォームしました。これは、個人投資家の市場参加が増え、投機色が強まっているサインであり、市場の調整が入りやすいと考えます。

2009年第4四半期の企業業績は今までのところプラスになっており、増益も考えられますが、企業業績報告は始まったばかりです。さらには、国際財務報告基準（IFRS）導入による修正報告は、営業利益に大きな影響を与えることが予想されます。インドは2011年4月からIFRSに移行します。

もう一つの要因が金融政策です。当ファンドは、政府が預金準備率とレポ・レート（中央銀行が市中銀行から政府証券を買い上げるときの割引率）を引き上げると予測します。しかし市場は準備率の引上げのみで、レポ・レートの上昇は織り込んでいないため、鉱工業生産とインフレは予想以上に力強く推移しており、短期的には警戒しています。しかしながら、当ファンドは2009年の企業業績は約25%、2010年は約20%の伸びを予測しています。したがって、人々のインドへの投資意欲が中長期的に弱まることはないと考えています。

**Q: セクターに関して、2010年のテーマは？**

A: 資本財・産業資材セクターのパフォーマンスは良くなると考えられます。前述のとおり、民間部門が、インフラ整備や設備投資に向けての資金調達を行うと、受注増を通じて資本財・産業資材、建設セクターは恩恵を受ける

と考えます。また、資本財・産業資材セクターは過去2～3四半期、他のセクターをアンダーパフォームしています。

消費者セクターは、一般消費財と生活必需品の両方において堅調に推移するとみています。特に生活必需品セクターは出遅れ感が強く、バリュエーションも以前の低い水準にまで低下しています。

一般消費財と不動産セクターも中央銀行の引締め政策を懸念し、足元アンダーパフォームとなっています。もっとも、2008年以降の中央銀行による大幅な金融緩和政策は終息に向かい、今後金利水準は正常化すると考えます。消費は2010年も引き続き堅調に推移すると見ています。今年度\*のGDP成長率予測は、モンスーンによる農作物への悪影響にもかかわらず、力強い鉱工業生産の伸びに支えられ、5%から7%へと上方修正されました\*4。

2011年度の予想GDP成長率は8%前後とされており\*5、この予測を基に1人当たりGDPの伸びを算出すると、名目ベースで10%前後になり、今後の消費を下支えすると考えます。今後金利の上昇が予想されますが、金融機関に対する流動性は十分に確保されるの見通しから、個人向けローンの提供に支障は無いと考えます。

したがって、当ファンドでは外的要因に影響を受けやすい外需関連セクターより、内需セクターを選好しています。確かに、テクノロジーセクターの2010年1月のパフォーマンスは力強く、業績も予想以上に好調でしたが、こうした材料はすでに市場に織り込み済みであり、同セクターについては引き続きアンダーウェイトを維持します。さらに、金属についても、徐々にウェイトを引き下げています。

このように、当ファンドでは2010年1～3月の間は、出来る限り慎重なポジションを続ける方針です。市場が驚くほどのパフォーマンスとならないかぎりその姿勢を崩すことはありません。

**Q: 2009年度のGDP成長率予測は7%前後に上方修正されたと述べられましたが、以前の予測はどのようなものでしたか？**

A: 当ファンドは兼ねてより今年度\*のGDP成長率が、市場を驚かす伸び率になるであろうと考えていました。鉱工業生産の力強い回復やモンスーンによる農産物への悪影響も限定的であったことから、GDP成長率のコンセンサス予想も上方修正されました。当ファンドは早い段階から、今年度\*のGDP成長率は、7%前後に達すると予測していました。

**Q: インドの輸出は2009年11月に14カ月ぶりに増加に転じました。これは回復の始まりと見てよいでしょうか？**

A: 2008年秋以降、極端な外需の落ち込みにより輸出も激減したことから、これをベースとした前年比の単月の伸び率からは、正確な判断は出来ません。政府は輸出セクターの先行きに不安を持っていることから、多くの雇用機会を創出する同セクターに対する支援を今後も強化するものと考えています。今後の輸出動向に大きな影響を与えるのは、世界経済の状況および為替動向です。現時点で輸出が回復に向かうと判断するには早計であり、もう少し様子を見たいと思っています。

**Q: 製造業の成長は力強いと述べられ、鉱工業株をポートフォリオに追加しています。しかしながら、インフレが進めば製造業の投入コストの増加に繋がるのではありませんか？**

A: 商品価格が上昇すれば投入コストも増加すると思います。投資対象銘柄を選択するとき、価格上昇が企業の利益率にどの程度影響するかを考えます。しかし大半のコスト増は転嫁されるので、影響は建設業とエンジニアリング企業に限られると思います。また、セメントや鉄鋼のような材料については政府が価格統制しています。実際2010年1月に入って、国際価格は堅調であるにもかかわらず、同国の大手政府系鉄鋼会社は価格の引き下げを発表しました。こうした政府の措置は金属会社にとってはマイナスですが、他の製造業セクターにとっては一定の効果があります。

**Q: ポートフォリオに関しては、12月に最も大きく変わった点とその背景は何でしょうか？**

A: 当ファンドはテクノロジーや金属など「グローバル・セクター」と呼ばれる輸出関連銘柄を売却しました。テクノロジー銘柄のバリュエーションは割高となっているほか、対米ドルでルピーが急騰したことから、収益の大半を海外での売上に依存している企業の収益に悪影響が出ると思われます。

全般的に当ファンドはこうした「グローバル・セクター」を売却し、内需セクターのウェイトを増やしています。内需セクターに関しては成長銘柄（例：鉱工業と自動車）とディフェンシブ銘柄（例：電力と通信）とのバランスを取っています。当ファンドは、短中期的には世界の経済成長の見通しよりインド国内の成長見通しに強気な見通しを持っていることから、内需関連銘柄を選好します。

\*1. 香港の同じカテゴリーのファンドとは、HKSF（香港証券先物委員会）が認定しているインド株式セクターを指します（出所：米モーニングスター社）。  
 \*2.\*3. 出所：米モーニングスター社。2009年12月31日時点  
 \*4.\*5. 出所：HSBCインベスト・グローバル・アセット・マネジメント。2009年12月31日時点  
 ※ 2009年4月～2010年3月

**ファンドに関する留意事項**

※投資はリスクを伴うものであり、過去の運用実績は将来の運用成果等を保証するものではありません。  
 ※当資料は当ファンドの組入証券を推奨するものではありません。  
 ※投資信託の純資産価格は、組入れた証券の値動き（外国証券の場合は更に為替相場の変動）等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むおそれがあります。当ファンドの申込みについては、当資料内「ファンドの主要なリスクおよび留意点」、「投資法人説明書（交付目論見書）」目論見書補完書面を必ずご覧下さい。

※本資料は、HSBCインベスト・グローバル・アセット・マネジメント（ホンコン）リミテッドが2010年1月27日に作成した資料を香港上海銀行が翻訳、編集したものです。

販売用資料

**HSBC Global Investment Funds - Indian Equity**

HSBC グローバル・インベストメント・ファンド・インド・エクイティ (クラス AD株式米ドル建て)  
ルクセンブルグ籍/オープンエンド会社型外国投資信託/米ドル建て

**ファンドの主要なリスクおよび留意点**

**価格変動リスク・市場リスク**

ファンドの基準価格は、組入れた株式等の値動きの影響により変動することがあります。結果として投資元本を割り込むことがあります。

**為替変動リスク**

ファンドが表示通貨以外での通貨建の株式等に投資する場合、表示通貨と投資対象証券等の間に生ずる為替の相対価値変動により、表示通貨からみた資産価値が変動します。結果として投資元本を割り込むことがあります。

**外貨建てファンドの為替リスク**

外貨建てファンドの場合には外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、円換算ベースでは投資元本を割り込むことがあります。

**信用リスク**

ファンドの基準価格は、組入れた株式等の発行者の経営・財務状況の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により変動することがあります。結果として投資元本を割り込むことがあります。

**新興国リスク**

新興諸国市場への投資の場合には、先進諸国への投資と比べ相対的に大きな値動きを伴うことが考えられます。結果として投資元本を割り込むことがあります。

※運用に伴うリスクは上記に限られたものではありません。  
\*投資法人説明書(目論見書)の記載内容を必ずお読みいただきご確認ください。

**その他のファンドに係る留意事項**

●投資信託のお取引に際しては、お客様が、投資法人説明書(目論見書)および目論見書補完書面をよくお読みになり、記載内容をご理解・ご承知おきいただいた上でお取引ください。●投資信託はザ・ホンコン・アンド・シャンハイ・バンキング・コーポレーション・リミテッド(香港上海銀行。「当行」)およびHSBCグループ法人の債務ではなく、それらによる保証もありません。●投資信託は、銀行預金ではありません。また、投資信託は預金保険制度の対象ではありません。当行でお買い求めいただいた投資信託は投資者保護基金制度の対象ではありません。●投資信託の価格は、個々の投資信託に組み入れられている有価証券等の値動きによって変動し、その結果、元本を割り込むリスクがあります。これら運用による損益および為替変動による損益はすべて投資信託を保有されているお客様に帰属します。したがって、投資信託は一般的な預貯金とは異なり、元本・利回りの保証はありません。●投資法人説明書(目論見書)は当行の各HSBC プレミアセンター(支店)にご用命ください。

**関係会社その他関係法人の概要について**

管 理 会 社	HSBC インベストメント・ファンズ (ルクセンブルグ) エス・エイ
保 管 銀 行 兼 支 払 代 理 人	RBC デクシア・インベスター・サービスズ・バンク・エス・エイ
投 資 顧 問 会 社	HSBC グローバル・アセット・マネジメント (シンガポール) リミテッド
代 行 協 会 員 お よ び 日 本 に お け る 販 売 会 社	ザ・ホンコン・アンド・シャンハイ・バンキング・コーポレーション・リミテッド 登録金融機関 関東財務局長(登金)第105号 加入協会: 日本証券業協会/ (社) 金融先物取引業協会

(注) ファンドは、ルクセンブルグの法律に準拠して設立されたオープンエンド型の変動資本を有する会社型投資信託です。

**お申込メモ**

お 申 込 期 間	ファンド営業日かつ香港における取引日、日本における販売会社の営業日に限り申込の取扱いが行われますが、代行協会が必要と認める場合、日本においての申込を受付けないことがあります。
お 申 込 価 格	各申込日に計算される1株当り純資産価格とします。
お 申 込 み 金 額	1,000米ドル以上1セント単位
買 戻 し	1株以上1株単位または日本における販売会社が定める単位で買戻し請求できます。 (ただし全株買戻し請求する場合は除きます。) 受渡しは、日本で買戻し額を確認できた日から起算して7営業日目となります。

販売用資料

**HSBC Global Investment Funds - Indian Equity**

HSBC グローバル・インベストメント・ファンド・インド・エクイティ (クラス AD 株式米ドル建て)

ルクセンブルグ籍/オープンエンド会社型外国投資信託/米ドル建て

**投資家の皆様にご負担いただく費用** (当ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。詳細については投資法人説明書(目論見書)をご参照下さい。)

●投資家の皆様にご負担いただく費用

	お申込み金額に応じて下記の手数料率をお申込金額に乗じて得た額とします。			
申 込 手 数 料	10万米ドル未満	2.625% (税抜*2.5%)	100万米ドル以上、300万米ドル未満	0.7875% (税抜*0.75%)
	10万米ドル以上、30万米ドル未満	2.1% (税抜*2.0%)	300万米ドル以上、500万米ドル未満	0.525% (税抜*0.5%)
	30万米ドル以上、50万米ドル未満	1.575% (税抜*1.5%)	500万米ドル以上	0.2625% (税抜*0.25%)
	50万米ドル以上、100万米ドル未満	1.05% (税抜*1.0%)		
買 戻 価 格	買戻価格は、買戻日に計算される各クラス株式の1株当たり純資産価格とします。買戻手数料は課せられません。			

●保有期間中に間接的にご負担いただく費用

管理報酬 <sup>*1</sup>	純資産価格に対して年率1.50%を上限とします。
運用費用、管理事務代行費用およびサービス費用 <sup>*2</sup>	純資産価格に対して年率0.40%を上限とします。

- ※1 管理報酬は、管理会社、投資顧問会社および海外における販売会社(日本を含む)によって提供された管理および販売業務をカバーするものです。
- ※2 ファンドは、一定の運営費用、管理事務代行費用およびサービス費用をカバーする報酬を管理会社に支払います。管理会社は主に、保管銀行、管理事務代行会社および名義書換代行会社に支払われる報酬を支払うことに責任を負います。

●その他の費用

監査報酬/有価証券売買時の売買委託手数料 等

上記その他費用は、実費として間接的にご負担いただきます。

※詳しくは交付目論見書の「第二部ファンド情報 第1 ファンドの状況 4. 手数料等及び税金」をご覧ください。

※「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限等を表示することができません。

※当該手数料等の合計額については、お客様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※円資金からのお申込みの際は、別途当行所定の為替手数料(例えば1米ドルあたり1円など)が必要です。